

水垂運動公園（仮称）に係るVFM算定表

○VFM計算式（算定には、将来の価格を現在の価値に割り戻した値を使用）

$$VFM(\%) = \frac{\text{従来の公共事業の場合のLCC} - \text{PFIの場合のLCC}}{\text{従来の公共事業の場合のLCC}} \times 100$$

※LCC（ライフサイクルコスト）・・・設定した事業期間にかかる収入、支出の全てをいう。
（「内閣府PFI事業導入の手引き」より）

○事業費比較によるVFMの想定

	方式	従来の公共事業	PFI制度（BTO方式）
支出	整備費 ^{※1} （A）	約38億円	約35億円
	運営維持管理費等（20年間） ^{※2} （B）	約21億円	約4億円
	総事業費計 ^{※3} （C）=（A）+（B）	約59億円	約39億円
収入	使用料収入及び国費 ^{※4} （D）	約22億円	約5億円
	本市負担額 （C-D）	約37億円	約34億円

↓ 現在価値に換算^{※5}

本市負担額 （現在価値換算後）（LCC）	31.5億円	27.5億円
VFM	$(31.5 \text{ 億円} - 27.5 \text{ 億円}) \div 31.5 \text{ 億円} \times 100\% =$	
	12.7%	

- ※1 設計費，工事監理委託費を含む。整備費は，平成28年度の整備基本計画見直し時の整備費を基に，経費率や工事単価を現在の価格に見直すとともに，多目的グラウンドを面積拡張，人工芝化し，総合フィールド及びサッカー・ラグビー場（2面）に夜間照明を設置する経費を加算して再積算。
- ※2 運営期間を20年間として，その間の維持管理経費と金利の合計額。PFIの場合は，使用料収入により民間事業者が独立採算による運営を行うこととし，本市負担が軽減可能と想定。
- ※3 埋立地としての対策費等は除く。
- ※4 使用料収入は，従来の公共事業の場合は本市の収入となるが，PFIの場合は事業者の収入とするため，本市の収入は0となる。
- ※5 VFMの算定は，現在の価値に割り戻して比較することが求められる。現在価値とは，例えば金利が5%の場合，今日の100円は1年後の105円と同じ価値であるという考えをもとに，将来の金額を現在の価値に置き換えることをいう。

